

# 武蔵野美術大学 教職課程の概要

第7年報

2021(令和3)年4月1日現在

武蔵野美術大学

## ■この報告書について■

この『武蔵野美術大学教職課程の概要』は、2014(平成26)年9月26日公布の改正省令(平成26年文部科学省令第28号)によって改正された教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号。以下、「施行規則」という。)第22条の6に基づいて、武蔵野美術大学の教員養成の状況について公開するものです。この改正された施行規則は、2015(平成27)年4月1日から施行され、同条に次の各号のとおり公開すべき内容が定められています(初等高等局長発通知、平成26年9月26日、26文科初第630号)。

- ① 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関する事。 (施行規則第22条の6第1号)
- ② 教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関する事。 (施行規則第22条の6第2号)
- ③ 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間授業計画に関する事。 (施行規則第22条の6第3号)
- ④ 卒業生の教員免許状の取得状況に関する事。 (施行規則第22条の6第4号)
- ⑤ 卒業生の教員への就職の状況に関する事。 (施行規則第22条の6第5号)
- ⑥ 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関する事。 (施行規則第22条の6第6号)

この『武蔵野美術大学教職課程の概要』は、この全6号で定められた内容を網羅するもので、6つの章に分けて情報を掲載します。すでに本学は法令で定められた大学情報の公表や各授業科目のシラバスの公開などをウェブページや印刷物を用いて行っていますので、より詳しい情報を記載したものがある場合は「**詳細参照**」として明示しています。

通信教育課程の情報公開については、公益財団法人私立大学通信教育協会「大学通信教育教職課程ガイドライン」(令和3年3月制定)に依拠します。なおこの第7年報作成途中に同制定が発表されましたので、すべての項目は網羅していません。

この『武蔵野美術大学教職課程の概要』は、2015(平成27)年4月1日に第1年報を公表して、その後も各年度ごと公表のうえ、ここに2021(令和3)年4月1日には第7年報を公表します。

## 目 次

1	■本学の教育目標と教員養成の目標■ (施行規則第22条の6第1号)	3
	■教員養成の目標 ■造形学部の教育理念・教育目標と3つのポリシー	
2	■教職課程の構成■ (施行規則第22条の6第2号)	6
	■教員の養成に係る組織及び教員の数 ■教職課程の教員の学位及び業績	
3	■教職課程の授業科目の概要■ (施行規則第22条の6第3号)	1 1
	■定員及び課程認定状況 ■教職に関する科目一覧 ■年間の授業計画	
4	■免許状の授与件数■ (施行規則第22条の6第4号)	1 6
	■教職課程受講者人数 ■免許状授与件数 ■免許状更新講習実施数	
5	■就職状況■ (施行規則第22条の6第5号)	2 2
	■東京都教員選考合格者実績 ■学校教員の採用実績	
6	■質向上の取組■ (施行規則第22条の6第6号)	2 3
	■大学独自教科書の発行 ■美術と福祉プログラム ■造形ファシリテーション能力獲得プログラム	
	■旅するムサビ・ムサビる ■学校ボランティア・インターンシップ ■教職課程の授業評価	
	■児童生徒・保護者向けの情報公開 ■教育研究施設の充実 ■科学研究費補助金による研究活動	
	■研究室雑誌『造形と教育』の刊行	

# 1 ■本学の教育目標と教員養成の目標■ (施行規則第22条の6第1号)

## ■教員養成の目標

武蔵野美術大学は、教員の養成の目標として、造形学部全体、通学課程各学科、通信教育課程のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを踏まえ、建学の精神である「教養を有する美術家養成」を基盤として、自らが「真に人間的自由に達するような美術教育」を担う主体としての美術科教員、工芸科教員、情報科教員を養成することを目標としています。

このため、教育職員免許法による中学校の美術科、高等学校の美術科、工芸科、情報科の免許状を授与するための教育課程を整備するとともに、さらに学校における造形教育を担うための実践的な指導力と教員としての幅広い教養をもつ人材の養成を進めています。

具体的には教育職員免許法などで定める必要最低限の科目にとどまらず、必修や選択の授業科目を加えています。通学課程では、介護等体験法に連動して「美術と福祉」を必修（情報免許を除く）として社会福祉に関する教養と美術について造形ワークショップを中心とした実践能力を培い、選択科目として「教育学特別演習」「教育方法特別演習」などの教職教養や専門教養のゼミ形式の科目を増設し、さらに「ワークショップ実践研究Ⅰ」「ワークショップ実践研究Ⅱ」を開講しています。通信教育課程では介護等体験法に連動して「介護等体験」を必修（高等学校のみの場合を除く）として社会と造形についての実践能力を培い、「教科又は教職に関する科目」の「ワークショップ研究Ⅰ」「ワークショップ研究Ⅱ」を選択科目として開設しています。

こうした特色あるカリキュラムと、各免許状で必要な「教職に関する科目」「教科に関する科目」を充実して、実践的指導能力と幅広い教養をもつ教員養成をすすめています。

## ■造形学部の教育理念・教育目標と3つのポリシー

造形学部全体で定めている教育目標や教育方針は次のとおりです。このほか、大学院、通学課程各学科、通信教育課程においても定められています。

### 教育理念

武蔵野美術大学の教育理念は、昭和4（1929）年10月30日、本学の前身である帝国美術学校の創立に由来するものです。

帝国美術学校の創立に寄与し、後にその経営と教育の中心となった金原省吾（開校時学監）の手記には「教養を有する美術家養成」と記されています。また、創立時の中心人物のひとり名取堯（開校時主事）の『武蔵野美術』（創立三〇周年記念特集）に寄せられた30年の回顧には、「人間が人間になる道は激しい鍛錬、たゆまざる精進の中にあつて、放任の中にはない、その框（わく）を固定させず、しかも、放縦に任せず、真に人間的自由に達するような美術教育への願い」であると語られており、美術を技術的専門性だけでなく、総合的な人間形成をもって成るものと考えたのです。

このように、まさに人間的自由に達するために美術・デザインを追求することこそが、本学の教育理念であると言うことができ、国内美術大学では最大規模の造形教育の大学となった現在も、この教育理念を継承し堅持しています。

### 教育目標

武蔵野美術大学造形学部は、美術を総合的な人間形成をもって成るものとする教育理念に基づき、次の教育目標を掲げる。

- 1.幅広い教養を備え、人格的にも優れた美術・デザインを中心とする造形各分野の専門家を養成する。
- 2.美術とデザインの領域における総合的な造形教育を通じて、広く知識を授けるとともに、深く専門の技能、理論や応用を教授研究し、豊かな美的教養をそなえた社会人を育成する。

こうした人材の輩出をもって、日本と世界の文化の創造発展と社会に貢献することを、武蔵野美術大学の使命とする。

## カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

造形の各分野を専攻するにあたっては、総合的判断力・批判力を養うために広く諸学問を学ぶ〔文化総合科目〕、造形という大きな視点から専門性の位置づけや基礎を確認するために、自分の専攻とは異なった領域や他学科の開設する授業を学ぶ〔造形総合科目〕、個々の学科が独自に専門的能力を追求する〔学科別科目〕の三者をバランスよく統合したところに、真の造形教育が成立すると考えています。

〔文化総合科目〕は、教養文化に関する科目、言語文化に関する科目、身体文化に関する科目、造形文化に関する科目という4つの科目群から構成されています。学生は、定められた条件のもと自由に科目を選択することができ、学生自身が自己の追求する専門領域の基盤を独自のかたちで構築することができます。開講される授業は、横断的な視点を取り入れたものや、段階を追ってテーマを深めていくものなど、より個性的に編成されています。また、既成の領域にとらわれない新しい分野をカバーする科目、国際化や高度情報化社会など、新たな社会システムに対応した科目が用意されていることは言うまでもありません。

〔造形総合科目〕は、すべての学生が、1年次前期から2年次前期にかけて、絵画・彫刻・デザインから専攻と異なった領域を学ぶ〔I類必修科目〕、他学科・研究室が開設する授業を1年次（5期）に履修する〔I類選択必修科目〕、年次を問わず各学科が公開する授業（オープン科目）や学科を越えて横断的に専任教員が開設する授業（横断科目）を卒業するまでに選択して履修する〔II類科目〕（うち2単位は選択必修）で構成されています。専門分野の深化とともに、他の分野にも広く目を開き経験することによって、造形という領域を総合的に捉えることを目的とする科目群です。

〔学科別科目〕は、学科ごとに設置されている科目であり、専門家として欠くことのできない専門的基礎理論・表現方法などの学習から、さらに高度の専門課程へと展開していく科目です。こうした有機的な科目群の結びつきと展開性は、本学の教育の大きな特徴であり、伝統的に保持してきた教養あふれる豊かな人間性の確立を基盤としたところに優れた芸術が成立するという、教育の基本理念に基づくものです。

## アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

武蔵野美術大学は幅広い教養を備え人格的にも優れた美術家やデザイナーなど、造形芸術の専門家を養成してきました。

本学では次のような学生を求めています。

1. 自らの目指す専門性を着実かつ大胆に深化、開拓しようとする人
2. 専門性を支える幅の広い造形力や教養を身に付けようとする人
3. 文化の創造発展に寄与し、国際社会で活躍しようとする人

## ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

武蔵野美術大学造形学部は、教育目標の実現のため編成されたカリキュラムのもと、設定された科目を履修し、卒業制作または卒業論文・研究を提出したもので、卒業に必要な単位を修得したものに卒業を認め学士（造形）の学位を授与する。具体的には、造形分野における独自の探求を行い、創造的な表現活動を実現するために、以下の7点をディプロマ・ポリシーとする。

- ・ 専門的な知識を理解し深めることができる。
- ・ 専門分野の基盤となる文化や諸科学について総合的に理解している。
- ・ 制作・研究を深め広げる技能を身につけている。
- ・ 他者に伝える表現能力および他者とともに考える対話能力を身につけている。
- ・ 批判的思考を働かせ、課題や主題を自主的に設定することができる。
- ・ 論理的思考・創造的思考を働かせ、独創的な課題解決の判断や構想ができる。

・制作・研究に幅広い関心と高い意欲を持ち、社会のなかで主体的に取り組むことができる。

**詳細参照** 建学の精神は『武蔵野美術大学のあゆみ』（武蔵野美術大学出版局、2009年）をご覧ください。通学課程各学科や通信教育課程の教育目標などは大学ウェブページの「大学概要 武蔵野美術大学について 建学の精神・教育理念」「大学情報の公開」をご覧ください。

## 2 ■教職課程の構成■ (施行規則第 22 条の 6 第 2 号)

### ■教員の養成に係る組織及び教員の数

武蔵野美術大学では、造形学部の通学課程と通信教育課程、大学院を円滑に運営するために、4 人の専任教員を中心とした教職課程研究室を組織しています。また教職課程の教育をサポートするために教職課程資料閲覧室を開設しています。教職課程全体の運営は、学則等に基づいて造形学部教授会、教務学生生活委員会、通信教育課程教務委員会を組織して、教職課程履修登録、介護等体験、教育実習などの議案として扱っています。さらに教職実践演習や免許状更新講習では別個に判定会議を置いています。

○教職課程に関する専任教員数 (2019(平成 31)年度の再課程認定による新課程)

令和3年4月1日現在		通学課程								通信教育課程											
		教科に関する科目								教職に関する科目		教科に関する科目								教職に関する科目	
		中美		高美		高工		高情				中美		高美		高工		高情			
		必	実	必	実	必	実	必	実	必	実	必	実	必	実	必	実	必	実		
造形学部	日本画学科	3	7	3	7	3	5			2	2							2	2		
	油絵学科	3	13	3	12	3	8					3	9	3	9	3	3				
	彫刻学科	3	8	3	8	3	5														
	視覚伝達デザイン学科	3	10	3	10	3	10														
	工芸工業デザイン学科	3	11	3	11	3	10														
	空間演出デザイン学科	3	10	3	10	3	10														
	芸術文化学科	3	7	3	7	3	7					3	5	3	4	3	4				
	デザイン情報学科							*	*											*	*

\*デザイン情報学科の「高情」(高等学校情報科の一種免許状)は、再課程認定を行わなかったため、2019(平成 31)年度からは新課程はなく、旧課程(2年次以上在学者等)のみである。

「中美」「高美」「高工」「高情」は、中学校美術、高等学校美術、高等学校工芸、高等学校情報の一種免許状。「必」「実」は教育課程認定基準に基づく専任教員の必要数と実際数。実際数は 2019(平成 31)年度実施の新課程の教育課程に関する文部科学省への申請事項の数値による。なお、大学設置基準等に基づく必要専任教員数や実際数は、これよりも大きな人数となっている。

### ■教職課程の教員の学位及び業績

○ 専任教員 (4名)

#### ■大坪圭輔(おおつぼ・けいすけ) 教授

担当科目：(通学)教育方法、美術教育法ⅠⅡⅢ、工芸教育法ⅠⅡ、教育実践の理論と方法、教育実習、教職実践演習(中高)

：(通信)美術教育法ⅡⅢⅣ、工芸教育ⅠⅡ、情報教育法ⅠⅡ、教育実践の理論と方法、教育実習、教職実践演習(中高)

：(大学院)美術教育研究

芸術学修士。武蔵野美術大学大学院修士課程修了。専門分野は、美術・工芸教育法、教育方法。著書(単著)に『工芸の教育』武蔵野美術大学出版局 2017 年、『美術教育資料研究』武蔵野美術大学出版局 2014 年、共著・編著に文部科学省検定中学校教科書『美術 1』『美術 2・3』開隆堂 2020 年、『求

められる美術教育』武蔵野美術大学出版局 2020 年など。学習指導要領の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者(平成 30 年告示高等学校美術、文部科学省)。評価規準、評価方法等の工夫改善に関する調査研究協力者(令和 2 年中学校美術、国立教育政策研究所)。現在、国際美術教育学会(InSEA)会員、美術科教育学会会員、大学美術教育学会会員、開隆堂中学美術教科書編集委員会(日本造形教育研究会)著者代表、公益社団法人日本美術教育連合理事長、公益財団法人教育美術振興会理事。

**詳細参照** 武蔵野美術大学ウェブページ「専任教員プロフィール集」

### ■伊東 毅 (いとう・たけし) 教授

担当科目：(通学)生活指導の理論と方法、特別活動の理論と方法、道德教育の理論と方法、  
教育実践の理論と方法、教育実習、教職実践演習(中高)、教育学  
：(通信)教育相談論、教育実践の理論と方法、教育実習、教職実践演習(中高)

修士(教育学)。東京大学大学院教育学研究科博士課程満期退学。教育哲学を専攻。著書(単著)に『未来の教師における特別活動論』武蔵野美術大学出版局 2011 年、共編著に高橋陽一・伊東毅編『これからの生活指導と進路指導』武蔵野美術大学出版局 2020 年、高橋陽一・伊東毅著『道德科教育講義』武蔵野美術大学出版局 2017 年、高橋陽一・伊東毅編『新しい教育相談論』武蔵野美術大学出版局 2016 年、汐見稔幸・伊東毅ほか編著『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房 2011 年、共著に公益財団法人私立大学通信教育協会編『新しい教育事情』同協会 2016 年、教育科学研究会編『なくならない「いじめ」を考える』国土社 2008 年、『教育相談論』武蔵野美術大学出版局 2002 年ほか、学術論文に「現代日本におけるいじめの特質—教育システムといじめとの関係の考察を中心に」社会文化学会編『社会文化研究』第 4 号晃洋書房 2001 年ほか。

**詳細参照** 武蔵野美術大学ウェブページ「専任教員プロフィール集」

### ■三澤一実 (みさわ・かずみ) 教授

担当科目：(通学)教育方法、美術教育法 I II III、美術教育法題材開発、教育実践の理論と方法、  
教育実習、教職実践演習(中高)、ワークショップ実践研究 II  
：(通信)教育方法、美術教育法 I、教育実践の理論と方法、教育実習、  
教職実践演習(中高)

修士(芸術学)。東京藝術大学大学院修士課程修了。美術教育を専攻。監修に『美術教育の題材開発』武蔵野美術大学出版局 2014 年、共著・編著に『美術の授業のつくりかた』武蔵野美術大学出版局 2020 年、文部科学省検定中学校教科書『美術 1』『美術 2・3』開隆堂 2012 年、『美術教育の動向』武蔵野美術大学出版局 2009 年、『小学校学習指導要領の解説と展開 図画工作編』教育出版 2008 年など。

**詳細参照** 武蔵野美術大学ウェブページ「専任教員プロフィール集」

### ■高橋陽一 (たかはし・よういち) 教授

担当科目：(通学)教師論、教育原理 I II、教育実践の理論と方法、教育実習、教職実践演習(中高)、  
教育学特別演習、総合的な学習の時間の指導法、特別支援教育、ワークショップ実践研究 I  
：(通信)教師論、教育原理 I II、道德教育の理論と方法、教育実践の理論と方法、  
教育実習、教職実践演習(中高)、総合的な学習の時間の指導法、特別支援教育、  
ワークショップ実践研究 I II  
：(大学院)教育学研究

修士(教育学)。東京大学大学院教育学研究科博士課程満期退学。日本教育史(国学・宗教教育)を専攻。著書(単著)に『新しい教育通義』『造形ワークショップを支える』『美術と福祉とワークショップ』『ファシリテーションの技法』『チーム学校の教師論』(以上武蔵野美術大学出版局)、『共通教化と教育勅語』(東京大学出版会)、『くわしすぎる教育勅語』(太郎次郎社)、監修に『ワークシ

『ワークショップ実践研究』、共編著に『道徳科教育講義』『新しい教育相談論』『造形ワークショップ入門』『造形ワークショップの広がり』『新しい教育相談論』『特別支援教育とアート』『総合学習とアート』『これからの生活指導と進路指導』いずれも武蔵野美術大学出版局、共著に東京大学史料室編『東京大学の学徒動員・学徒出陣』東京大学出版会 1997年ほか。公益財団法人私立大学通信教育協会理事長。

**詳細参照** 武蔵野美術大学ウェブページ「専任教員プロフィール集」

## ○非常勤講師

教職課程研究室に所属して教育活動に当たる非常勤講師を五十音順に列記した。一部に教科に関する科目などを含む。

■有福一昭（ありふく・かずあき）講師（通学）総合的な学習の時間の指導法、特別支援教育  
修士（芸術学）。有明教育芸術短期大学教授。多摩美術大学大学院美術研究科修士課程修了。絵画専攻。共著に『教師論』武蔵野美術大学出版局2002年、『造形ワークショップの広がり』武蔵野美術大学出版局2011年、『特別支援教育とアート』武蔵野美術大学出版局2018年、『総合学習とアート』武蔵野美術大学出版局2019年など。公益財団法人児童育成協会こどもの城造形事業部課長などを歴任。

**詳細参考** 有明教育芸術短期大学 教員紹介・研究データ

■大多和雅絵（おおたわ・まさえ）講師（通信）教育原理 I

博士（社会科学）。横浜市職員（市立学校事務職員）。お茶の水女子大学大学院博士前期課程修了。日本教育史（戦後教育史）を専攻。単著に『戦後夜間中学校の歴史』六花出版2017年、共著に共生社会の学校づくり研究会編『貧困・障害・国籍 教育のインクルーシブ化に学校はどう備えるか』学事出版2020年。学術論文に「戦後夜間中学校の研究—東京都夜間中学校日本語学級の開設に着目して」『日本の教育史学』第54集2011年など。

■桂瑠以（かつら・るい）講師（通信）教育心理学

博士（人文科学）。川村学園女子大学文学部心理学科准教授。お茶の水女子大学大学院博士後期課程修了。社会心理学・教育心理学を専攻。共著に『新しい教育相談論』武蔵野美術大学出版局2016年、『考えるための心理学』武蔵野美術大学出版局2012年など。学術論文に「The effect of mobile phone use on communication between parents and children」『Ochanomizu University Global COE Program English Monograph Proceedings』第17巻2012年など。

**詳細参考** 川村学園女子大学教員紹介

■亀澤朋恵（かめざわ・ともえ）講師（通信）道徳教育の理論と実践

博士（教育学）。愛知江南短期大学こども健康学科准教授を経て、高田短期大学講師。神戸大学大学院博士課程後期課程修了。日本教育史（教員養成）、美術教育史を専攻。学術論文に、「「文検図画科」試験問題の研究—「用器画」の場合—」『日本の教育史学』第57集2014年、「受験体験記からみた「文検図画科」の受験者像」『美術教育学研究』第49号2017年など。

■川本雅子（かわもと・まさこ）講師（通学）総合的な学習の時間の指導法、特別支援教育（通信）総合的な学習の時間の指導法、ワークショップ研究 I

修士（教育学）。武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業、東京学芸大学大学院修士課程修了。美術教育学（社会福祉施設におけるワークショップなど）を専攻。共著に『ワークショップ実践研究』武蔵野美術大学出版局2002年、『造形ワークショップの広がり』武蔵野美術大学出版局2011年、『造形ワークショップ入門』武蔵野美術大学出版局2015年、『特別支援教育とアート』武蔵野美術大学出版



局2018年、『総合学習とアート』武蔵野美術大学出版局2019年。

■北沢昌代（きたざわ・まさよ）講師（通学）美術教育法Ⅰ、美術教育法Ⅱ、美術教育法Ⅲ、教育方法、（通信）教育方法

芸術学修士。聖徳大学短期大学部准教授。武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻油絵コース修士課程修了。美術教育（教科指導法、教科指導方法）を専攻。共著に『子どもの造形表現 ワークシートで学ぶ』開成出版2016年、『美術教育の動向』武蔵野美術大学出版局2009年など。学術論文に「音もだちランド」における学生の学びについて『日本美術教育連合研究誌』第44回2011年など。近作に「MASAYO KITAZAWA Exposition」salon de H フランス2011～2014年毎年発表など。全国大学造形美術教育教員養成協議会事務局長を歴任。

**詳細参照** 聖徳大学研究データベース

■桑田直子（くわた・なおこ）講師（通信）教師論

Ph.D（マンチェスター大学による学術博士号）。島根県立飯南高等学校教諭。マンチェスター大学人文科学部博士課程修了。共著『新しい教師論』武蔵野美術大学2014年に「欧米の教員養成」を執筆。学術論文に「1920-30年代高等女学校における洋装制服の普及」『日本の教育史学』第39集1996年、「市民洋装普及過程における裁縫科の展開とディレンマ」『教育学研究』第65巻第2号1998年など。

■杉山貴洋（すぎやま・たかひろ）講師（通学）総合的な学習の時間の指導法、特別支援教育、（通信）特別支援教育、ワークショップ研究ⅠⅡ

学士（造形）。白梅学園大学子ども学部発達臨床学科教授。武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科卒業。造形教育を専攻。共著に『ワークショップ実践研究』『造形ワークショップの広がり』『造形ワークショップ入門』『特別支援教育とアート』『総合学習とアート』（武蔵野美術大学出版局）など。2008年、2010年、2011年、2013年にキッズデザイン賞を受賞。2009年富田博之記念賞受賞、第7回こども環境学活動賞受賞。

**詳細参照** 白梅学園大学各教員ページ

■田中千賀子（たなか・ちかこ）講師（通学）総合的な学習の時間の指導法、特別支援教育（通信）教育原理Ⅰ、教育原理Ⅱ、総合的な学習の時間の指導法、ワークショップ研究Ⅰ、介護等体験

博士（造形）。武蔵野美術大学大学院博士後期課程修了。日本教育史・美術教育を専攻。著書（単著）に『近代日本における学校園の成立と展開』風間書房2015年、著書（共著）に『造形ワークショップ入門』武蔵野美術大学出版局2015年、『特別支援教育とアート』武蔵野美術大学出版局2018年、『総合学習とアート』武蔵野美術大学出版局2019年。学術論文に「学校園概念の成立」『日本の教育史学』第52集2009年、「明治後期の教育課程論における学校園の造形と道徳教育」『成城大学共通教育論集』第4号2011年、「東京市の公立小学校における学校園の展開」『日本の教育史学』第55集2012年など。東京家政大学家政学部助教を歴任。日本教育史学会幹事。

■唐音啓（とう・おんけい）講師（通学）教育心理学、教育相談論

修士（教育学）。東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻教育心理学修士課程修了。東京大学発達保育政策実践教育政策学センター学術支援専門職員、共愛学園前橋国際大学非常勤講師。主な論文に、「学級集団の構造といじめ問題に関する研究の概観」『東京大学大学院教育学研究科紀要』(59), 2020年。

■長澤博昭（ながさわ・ひろあき）講師（通学）教育方法特別演習、美術教育法題材開発、美術の理論と歴史と鑑賞

修士（教育学）。上越教育大学大学院学校教育研究科修士課程修了。横浜市教育委員会指導主事。市立中学校長。神奈川県及び横浜市中学校教育研究会美術科部会長を歴任。共著・編著に文部科学省検定中学校教科書『美術』開隆堂執筆、日本文教出版企画執筆、『横浜版学習指導要領』『新版造形教育実践全集』など。

■橋本萌（はしもと・めぐみ）講師（通信）特別活動の理論と方法

博士（社会科学）。東京保育専門学校教員。お茶の水女子大学大学院博士後期課程修了。日本教育史（修学旅行の歴史）を専攻。単著に『「伊勢参宮旅行」と「帝都」の子どもたち』六花出版2020年。学術論文に「1930年代東京府（東京市）小学校の伊勢参宮旅行—規模拡大の経過と運賃割引要求—」『教育学研究』第80巻第1号2013年、「1920年代小学校最上級学年児童の宮城拝観についての一考察」『日本の教育史学』第62集2019年など。2019年第9回教育史学会研究奨励賞を受賞。

■細野泰久（ほその・やすひさ）講師（通学）総合的な学習の時間の指導法、特別支援教育

修士（教育学）、修士（学術）。横浜国立大学大学院教育学研究科修了。放送大学大学院文化科学研究科修了。美術教育を専攻。学術論文に「3.11以後：ソーシャル・プラクティスに向かうアートと教育」『教育デザイン研究』第9号 2018年、「教育における Useful Art の可能性」『美術教育学研究』第51号 2019年、「シンボル・システムとしての描画：自閉スペクトラム児・者との思考の共有に向けて」『日本美術教育研究論集』第52号 2019年など。

■松本敏裕（まつもと・としひろ）講師（通信）美術教育法Ⅱ、工芸教育法Ⅰ

学士（造形）。武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。美術教育（教科指導法、教育課程）を専攻。学術論文に「地球環境をテーマとしたエコトレインポスターの制作と鑑賞の展開」全国高等学校教育課程研究協議会事例発表2003年、「文化部活動の活性化」神奈川県教頭研究会事例発表2005年など。神奈川県高等学校教諭、神奈川県教育委員会主幹兼指導主事、県立希望ヶ丘高等学校副校長を歴任。

■山口正己（やまぐち・まさみ）講師（通信）美術教育法ⅡⅢⅣ

修士（教育学）。千葉大学大学院教育学研究科美術教育修了。美術教育を専攻。単著に『中学校美術 デザイン教育入門』明治図書1992年、共著に『図画工作・美術教育研究』教育出版1994年、『中学校美術観点別学習状況評価基準表』図書文化社1994年、『中学校美術題材集』開隆堂1996年、『新しい美術科の指導』開隆堂出版1996年など。

■渡辺典子（わたなべ・のりこ）講師（通学）教育学、（通信）生活指導の理論と方法

修士（文学）。日本女子大学大学院文学研究科博士課程後期満期退学。教育学・日本教育史を専攻。著書（共著）に『特別活動論』武蔵野美術大学出版局2002年、『新しい生活指導と進路指導』武蔵野美術大学出版局2013年、望月厚志ほか5名共著『生涯学習支援の基礎理論と実践の転換』青簡社2020年。学術論文に「動物愛護を通じた社会づくりに関する考察」『人間研究』2015年、「明治期の日本女子大学卒業生による「大学拡張」運動」全国地方教育史学会『地方教育史研究』第39号2018年。2001年第14回石川謙日本教育史研究奨励賞を受賞。全国地方教育史学会幹事。

### 3 ■教職課程の授業科目の概要■ (施行規則第22条の6第3号)

#### ■定員及び課程認定状況

定員などは2019(平成31)年度の再課程認定に基づく「新課程」の課程認定を受けた学科のみを示します。なお、油絵学科油絵専攻及び版画専攻は、2専攻の形態でカリキュラムを行うことで2021(令和3)年度の課程認定を受けて認可されています。課程認定を受けていない学科は除いています。

(通学課程) 1種免許状の課程

(通学課程) 課程認定学科専攻		定員			免許種別・免許教科
		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	
造 形 学 部	日本画学科	39		156	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校1種免許状 美術</li> <li>・高等学校1種免許状 工芸</li> <li>・中学校1種免許状 美術</li> </ul>
	油絵学科 油絵専攻 版画専攻 (小計)	140	6	502	
	彫刻学科	31		124	
	視覚伝達デザイン学科	117	4	476	
	工芸工業デザイン学科	120	4	488	
	空間演出デザイン学科	108	4	440	
	芸術文化学科	72	3	294	
	(デザイン情報学科)	76	27	304	

通学課程のうちデザイン情報学科は2019(平成31)年度より新課程の課程認定を受けていない。建築学科、基礎デザイン学科、映像学科は課程認定を受けていない。

(通学課程) 専修免許状の課程

(通学課程) 課程認定専攻		定員		免許種別・免許教科
		入学定員	収容定員	
大 学 院	修士課程 美術専攻	50	100	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校1種免許状 美術</li> <li>・高等学校1種免許状 工芸</li> <li>・中学校1種免許状 美術</li> </ul>
	修士課程 デザイン専攻	45	90	
	(デザイン情報学コース)			・高等学校1種免許状 情報

(通信教育課程) 1種免許状の課程

(通信教育課程) 課程認定学科専攻		定員				免許種別・免許教科
		入学 定員	編入学定員		収容 定員	
			2年次	3年次		
造 形 学 部	油絵学科	200	30	50	990	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校1種免許状 美術</li> <li>・高等学校1種免許状 工芸</li> <li>・中学校1種免許状 美術</li> </ul>
	芸術文化学科	60	10	20	310	
	(デザイン情報学科)	(150)	( 30)	( 30)	(750)	

通信教育課程のうちデザイン情報学科は2019(平成31)年度より課程認定を受けていない。

## ■教職に関する科目一覧

授業科目名称について、旧「道德教育の研究」「生活指導の研究」「特別活動の研究」「教育実践の研究」の「研究」が「指導と方法」となるなど、2018(平成30)年度より一部変更となりました。2019(平成31)年度から新法による再課程認定により新課程となります。(旧)と注記した高等学校情報免許関連と「美術と福祉」は旧課程のみです。なお、油絵学科については、文部科学省による課程認定のルール変更により、油絵専攻と版画専攻という二つの専攻ごとに改めて課程認定を受け、2021(令和3)年4月より実施します。これに伴う実質的な変化はありませんが、証明等に用いる正規の授業科目名が次のとおり他学科とは異なります。

\*2021(令和3)年度油絵学科油絵専攻及び版画専攻入学者(通学課程のみ)より適用

教育原理Ⅰ → 教育原理

教育原理Ⅱ → 教育制度論

生活指導の理論と方法(生徒指導、進路指導及びキャリア教育を含む)

→ 生徒指導の理論と方法(進路指導及びキャリア教育を含む)

**詳細参照** 授業科目のシラバスは大学のウェブページをご覧ください。

(新法)教育職員免許法施行規則による規定			武蔵野美術大学			
施行規則に定める科目区分等	各科目に含める必要事項	単位数	通学課程		通信教育課程	
			科目	単位数	科目	単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		美術教育法Ⅰ	2	美術教育法Ⅰ	T2
			美術教育法Ⅱ	2	美術教育法Ⅱ	T1S1
			美術教育法Ⅲ	2	美術教育法Ⅲ	T2
			美術教育法題材開発	2	美術教育法Ⅳ	T1S1
			工芸教育法Ⅰ	2	工芸教育法Ⅰ	T2
			工芸教育法Ⅱ	2	工芸教育法Ⅱ	T1S1
			(旧)情報科教育法Ⅰ	2	(旧)情報教育法Ⅰ	T2
			(旧)情報科教育法Ⅱ	2	(旧)情報教育法Ⅱ	T1S1
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	10	教育原理Ⅰ*	2	教育原理Ⅰ	T2
			教育学特別演習	2		
			教師論	2	教師論	T2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解 教育課程の意義及び編成の方	中12	教育心理学	2	教育心理学	T2
			特別支援教育	2	特別支援教育	T2
			*教育方法には、「別欄		*教育方法には、「別欄	

	法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	高6	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）」を含む。		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）」を含む。	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中10 高8	道徳教育の理論と方法	2	道徳教育の理論と方法	T2
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法	2	総合的な学習の時間の指導法	T2
	特別活動の指導法		特別活動の理論と方法	2	特別活動の理論と方法	T2
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育方法 教育方法特別演習	2 2	教育方法	T1S1
	生徒指導の理論及び方法		生活指導の理論と方法（生徒指導、進路指導及びキャリア教育を含む）＊	2	生活指導の理論と方法（生徒指導、進路指導及びキャリア教育を含む）	T2
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		教育相談論	2	教育相談論	T2
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法					
教育実践に関する科目	教育実習	中5 高3	教育実習Ⅰ	2	教育実習Ⅰ	S2
			教育実習Ⅱ	2	教育実習Ⅱ	S2
		教育実践の理論と方法	1	教育実践の理論と方法	S1	
	教職実践演習	2	教職実践演習（中・高）	2	教職実践演習（中・高）	T1S1
大学が独自に設定する科目 （旧）教科又は教職に関する科目			（旧）美術と福祉	2	介護等体験	T2
					ワークショップ研究Ⅰ	T1S1
					ワークショップ研究Ⅱ	T1S1

## 年間の授業計画（2021(令和3)年度）

2021(令和3)年度の授業計画は次のとおりです。

\*2021(令和3)年3月1日現在の予定であり、今後も新型コロナウイルス対応で変更となる可能性があります。

月	日	週	通学課程 学事予定 *	通信教育課程 学事予定	備考
4	29-3		オリエンテーション週間、4/5(月)入学式、 履修登録期間4/10(土)-4/19(月)	4/1(木)4月生入学・編入学	
	5-10				
	12-17	1	4/12(月) 前期授業開始		
	19-24	2			
	26-1	3		4/30(金)春期週末スクーリング開始	
5	3-8	4			5/3(月)憲法記念日、 5/4(火)みどりの日、 5/5(水)こどもの日は授業 日
	10-15	5			
	17-22	6			
	24-29	7			
6	31-5	8	教育実習		
	7-12	9	教育実習 6/12(土)、13(日)オープンキャンパス	6/13(日)第1回科目試験	
	14-19	10	教育実習		
	21-26	11			
	28-3	12			
7	5-10	13	7/5(月)~17(土)夏季追加授業期間① 7/10(土)前期授業終了(文化総合科目)		
	12-17	14	前期補講・講義科目定期試験週間 7/12(月)- 7/17(土)		
	19-24	15	7/19(月)~8/21(土)夏季休業	7/18(日)春期週末スクーリング終了 7/22(木)第2回科目試験 夏期スクーリング 7/23(金)-8/29(日)	
	26-31			(鷹の台夏期スクーリング 7/27(火)-8/22(日))	
8	2-7				
	9-14		8/14(土)、8/15(日)オープンキャンパス		
	16-21				
	23-28		8/23(月)~9/4(土)夏季追加授業期間②		
	30-4				
9	6-11	16	9/6(月)後期授業開始(文化総合科目) 9/9(木)・10(金)後期修正履修登録(予定)	9/5(日)第3回科目試験 9/10(金)秋期週末スクーリング開始	
	13-18	17			
	20-25	18			9/20(月)敬老の日、

					9/23(木)秋分の日は授業日
	27-2	19	大学院修士課程入学試験(A日程)10/1(金)~3(日) (予定)		
10	4-9	20			
	11-16	21	、		10/11(月)スポーツの日は 授業日
	18-23	22		10/17(日)秋期週末スクーリング終了 10/17(日)第4回科目試験 10/22(金)冬期週末スクーリング開始	10/30(土)創立記念日
	25-30		芸術祭活動 準備10/25(月)-28(木)、 祭典10/29(金)-31(日)		
11	1-6	23	整理期間11/1(月)-3(水)		
	8-13	24	総合型選抜入試(前期)11/13(土)14(日)		
	15-20	25			
	22-27	26	学校推薦型選抜(指定校推薦方式)、編入学選 抜、転部・転科試験11/27(土)28(日)	11/23(火)第5回科目試験	11/23(火)勤労感謝の日
	29-4	27			
12	6-11	28			
	13-18	29	12/18(土)後期授業終了(文化総合科目)		
	20-25	30	後期補講・講義科目定期試験週間12/20(月)-25 (土) 学校推薦型選抜(学校長推薦方式)12/20(月) 21(火) 外国人・帰国生・公募制推薦入試(後期) 12/23(水)-24(木)(予定)	(鷹の台冬期スクーリング 12/19(日)-12/24(金))	
	27-1		冬季休業12/27(月)-1/9(土)		
1	3-8				
	10-15		卒業制作展1/13(木)-16(日)		1/10(月)成人の日は卒業 制作・論文の提出日・採点 日
	17-22		大学院修士課程入学試験(B日程)		
	24-29		1/19(水)-21(金)	1/23(日)第6回科目試験	
2	31-5		学部入学試験 2/1(火)-8(火)(予定)	1/30(日)冬期スクーリング終了	
	7-12				
	14-19	31			
	21-26	32	大学院博士後期課程入学試験 2/24(木)~2/25(金)(予定)		
3	28-5	33			
	7-12	34			
	14-19		3/18(金)卒業式	3/12(土)~15(火)卒業制作展 3/18(金)卒業式	
	21-26				
	28-2				

## 4 ■免許状の授与件数■ (施行規則第22条の6第4号)

### ■教職課程受講者人数

教職課程の受講が可能な者は、通学課程では課程認定を受けた造形学部8学科と大学院造形研究科2専攻の1年次の学生と、同卒業生の科目等履修生です。通信教育課程では、造形学部4学科の2年次以上で、取得単位数等の条件を満たした学生が受講可能となり、さらに本学卒業生や現職教員を科目等履修生で受け入れています。

#### ○通学課程 2020(令和2)年5月1日現在

(通学課程) 課程認定学科専攻		登録者数					免許教科別人数			
							中学		高等学校	
		1年	2年	3年	4年	小計	美術	美術	工芸	情報
造形学部	日本画学科	7	13	8	8	36	36	36	2	0
	油絵学科	26	40	46	33	145	145	145	20	0
	彫刻学科	7	15	3	9	34	34	34	8	0
	視覚伝達デザイン学科	4	6	2	3	15	15	15	3	0
	工芸工業デザイン学科	15	15	12	5	47	47	47	27	0
	空間演出デザイン学科	16	10	14	7	47	47	47	8	0
	芸術文化学科	13	14	4	13	44	44	44	12	0
	デザイン情報学科	0	6	5	4	15	0	0	0	15
	科目等履修生	7				7	7	7	3	0
	造形学部小計	88	119	94	82	390	375	375	83	15
大学院	美術専攻	7	4	-	-	11	11	11	0	0
	デザイン専攻	0	0	-	-	0	0	0	0	0
	大学院小計	7	4	-	-	11	11	11	0	0
合計		95	123	94	82	401	401	401	83	15

履修登録については、デザイン情報学科は高等学校情報免のみ、他学科は中学校と高等学校の美術免を基本として、希望により工芸免を加えて登録している。

#### ○通信教育課程 2020(令和2)年5月1日現在

(通信教育課程) 課程認定学科		登録者数					免許教科				
							中学		高等学校		
		1年	2年	3年	4年	小計	美術	美術	工芸	(情報)	
造形学部	油絵学科	—	39	16	42	97	80	85	26	(6)	
	工芸工業デザイン学科	—	7	1	10	18	14	16	10	(0)	
	芸術文化学科	—	1	17	20	38	33	31	13	(1)	
	デザイン情報学科	—	10	7	12	29	15	20	11	(16)	
	科目等履修生	卒業生特例					53	48	44	19	(3)
	科目等履修生	教職生					74	52	35	22	(4)
造形学部小計		—	57	41	84	309	242	231	101	(30)	

通信教育課程の教職課程履修登録は2年次より。卒業生特例は本学造形学部(通学課程を含む)の卒業生について、教職生は現職の学校教員で校長等の推薦のある者について、教員免許状の取得を目的として履修する者である。



## ■免許状授与件数

通学課程の免許状は、大学を通じて免許状授与権者である東京都教育委員会に卒業修了年次に教育職員免許法施行規則別表1の科目について「一括申請」を行うために正確な数値がわかります。これに対して、各都道府県教育委員会に学生が「個別申請」を行うことが一般的な通信教育課程では、実数の把握が困難となっています。

**詳細参照** 過年度の免許状授与件数は『武蔵野美術大学年報』をご覧ください。

### ○通学課程

#### (1) 2016(平成28)年度卒業生

(通学課程) 課程認定学科専攻		授与者数	免許取得者数(免許状種別ごとに表示)			
			高等学校			中学校
			美術	工芸	情報	美術
造形学部	日本画学科	8	8	0	0	8
	油絵学科	40	40	5	0	36
	彫刻学科	9	9	0	0	9
	視覚伝達デザイン学科	2	2	0	0	2
	工芸工業デザイン学科	11	11	4	0	11
	空間演出デザイン学科	8	8	0	0	7
	芸術文化学科	9	9	3	0	9
	デザイン情報学科	0	0	0	0	0
	科目等履修生	10	9	5	0	9
	造形学部小計	97	96	17	0	91
大学院	美術専攻	12	12	0	0	12
	デザイン専攻	1	1	0	0	1
	大学院小計	13	13	0	0	13
大学合計		110	109	17	0	104

#### (2) 2017(平成29)年度卒業生

(通学課程) 課程認定学科専攻		授与者数	免許取得者数(免許状種別ごとに表示)			
			高等学校			中学校
			美術	工芸	情報	美術
造形学部	日本画学科	8	8	0	0	8
	油絵学科	28	28	3	0	28
	彫刻学科	3	3	0	0	3
	視覚伝達デザイン学科	2	2	0	0	2
	工芸工業デザイン学科	2	2	1	0	2
	空間演出デザイン学科	6	6	1	1	6
	芸術文化学科	6	6	1	0	6
	デザイン情報学科	0	0	0	0	0
	科目等履修生	8	6	2	0	8
	造形学部小計	63	61	8	0	63

大 学 院	美術専攻	8	8	0	0	8
	デザイン専攻	0	0	0	0	0
	大学院小計	8	8	0	0	8
	大学合計	71	69	8	0	71

(3) 2018(平成30)年度卒業生

(通学課程) 課程認定学科専攻		授与者数	免許取得者数(免許状種別ごとに表示)			
			高等学校			中学校
			美術	工芸	情報	美術
造 形 学 部	日本画学科	5	5	3	0	5
	油絵学科	24	24	3	0	24
	彫刻学科	5	5	1	0	5
	視覚伝達デザイン学科	5	5	0	0	5
	工芸工業デザイン学科	7	7	6	0	7
	空間演出デザイン学科	9	9	4	0	9
	芸術文化学科	2	2	0	0	2
	デザイン情報学科	0	0	0	0	0
	科目等履修生	11	9	4	0	9
	造形学部小計	68	66	21	0	66
大 学 院	美術専攻	7	7	0	0	7
	デザイン専攻	0	0	0	0	0
	大学院小計	7	7	0	0	7
	大学合計	75	73	21	0	73

(4) 2019(平成31)年度卒業生

(通学課程) 課程認定学科専攻		授与者数	免許取得者数(免許状種別ごとに表示)			
			高等学校			中学校
			美術	工芸	情報	美術
造 形 学 部	日本画学科	5	5	1	0	5
	油絵学科	26	26	3	0	25
	彫刻学科	7	7	0	0	7
	視覚伝達デザイン学科	1	1	0	0	1
	工芸工業デザイン学科	4	4	2	0	4
	空間演出デザイン学科	6	6	0	0	6
	芸術文化学科	10	10	4	0	10
	デザイン情報学科	0	0	0	0	0
	科目等履修生	3	3	2	0	2
	造形学部小計	62	62	16	0	60
大 学 院	美術専攻	6	6	0	0	6
	デザイン専攻	0	0	0	0	0
	大学院小計	6	6	0	0	6
	大学合計	68	68	16	0	66

(5) 2020(令和2)年度卒業生

(通学課程) 課程認定学科専攻		授与者数	免許取得者数(免許状種別ごとに表示)			
			高等学校			中学校
			美術	工芸	情報	美術
造形学部	日本画学科	8	8	0	0	8
	油絵学科	34	34	8	0	34
	彫刻学科	1	1	0	0	1
	視覚伝達デザイン学科	1	1	0	0	1
	工芸工業デザイン学科	5	5	4	0	5
	空間演出デザイン学科	9	9	1	0	9
	芸術文化学科	3	3	0	0	3
	デザイン情報学科	0	0	0	0	0
	科目等履修生	3	2	1	0	3
	造形学部小計	64	63	14	0	64
大学院	美術専攻	12	12	1	0	12
	デザイン専攻	0	0	0	0	0
	大学院小計	12	12	1	0	12
大学合計		76	75	15	0	76

○通信教育課程「別表1」の一括申請

卒業生特例は本学造形学部(通学課程を含む)の卒業生について、教職生は現職の学校教員で校長等の推薦のある者について、教員免許状の取得を目的として履修する科目等履修生です。通信教育課程の特徴として、卒業段階で免許状授与権者である東京都教育委員会に大学を通じて「別表1」について申請を行う「一括申請」の割合が低くなります。編入学者や科目等履修生など様々な時期に居住地の道府県教育委員会に行ったり、「別表3」「別表4」「別表8」により既修得免許状などを前提に申請する「個別申請」の比重が高くなります。この「個別申請」では、大学は証明書の発行等々を行うが、授与権者からの免許状の授与の仲立ちを行わないため、最終的な免許状授与件数の把握が難しいのが実態です。

(1) 2016(平成28)年度卒業者のうち一括申請者

(通信教育課程) 課程認定学科		授与者数	免許教科			
			中学		高等学校	
			美術	美術	工芸	情報
造形学部	油絵学科	5	3	5	1	
	工芸工業デザイン学科	1	1	1	1	
	芸術文化学科					
	デザイン情報学科	1		1	1	1
	造形学部小計	7	4	7	3	1

(2) 2017(平成 29)年度通信教育課程卒業者のうち一括申請者

(通信教育課程) 課程認定学科		授与者数	免許教科			
			中学		高等学校	
			美術	美術	工芸	情報
造 形 学 部	油絵学科	4	4	4		
	工芸工業デザイン学科					
	芸術文化学科					
	デザイン情報学科					
	造形学部小計	4	4	4		

(3) 2018(平成 30)年度通信教育課程卒業者のうち一括申請者

(通信教育課程) 課程認定学科		授与者数	免許教科			
			中学		高等学校	
			美術	美術	工芸	情報
造 形 学 部	油絵学科					
	工芸工業デザイン学科					
	芸術文化学科					
	デザイン情報学科	1				1
	造形学部小計	1				1

(4) 2019(平成 31)年度通信教育課程卒業者のうち一括申請者

(通信教育課程) 課程認定学科		授与者数	免許教科			
			中学		高等学校	
			美術	美術	工芸	情報
造 形 学 部	油絵学科	1	1	1		
	工芸工業デザイン学科					
	芸術文化学科	1		1		
	デザイン情報学科					
	造形学部小計	2	1	2		

(5) 2020(令和 2)年度通信教育課程卒業者のうち一括申請者

(通信教育課程) 課程認定学科		授与者数	免許教科			
			中学		高等学校	
			美術	美術	工芸	情報
造 形 学 部	油絵学科	5	5	5	1	1
	工芸工業デザイン学科					
	芸術文化学科					
	デザイン情報学科					
	造形学部小計	5	5	5	1	1

○通信教育課程の個別申請件数(申請証明書発行数)

通信教育課程では、本学編入学前や本学卒業又は退学後に修得し単位の証明書によって都道府県教育委員会(免許状授与権者)に対して「個人申請」を行って免許状を授与されるケースが多く存在します。これは大学が免許状の授受そのものに関与しないために実際の授与の確認が困難です。大学として把握できる証明書の発行数は次のとおりです。

	発行者数	学生所属学科内訳				科目等履修生		別表の内訳			
		油絵学科	工芸工業デザイン学科	芸術文化学科	デザイン情報学科	卒業生特例	教職生	別表1	別表3	別表4	別表8
2015(平成27)年度	63	11	2	4	4	21	21	33	4	16	10
2016(平成28)年度	51	9	1	4	6	17	14	33	2	13	3
2017(平成29)年度	48	19	1	2	2	14	10	31	2	12	3
2018(平成30)年度	47	12	2	3	1	13	16	25	1	16	5
2019(平成31)年度	43	10	1	2	4	12	14	22	2	13	6
2020(令和2)年度	52	6	4	5	7	15	15	31	0	16	5

■免許状更新講習実施数

本学は、教育職員免許法にもとづく免許状更新講習について文部科学省による試行段階から参加して、実施初年度から実施しています。通信講習の教材には、必修領域では公益財団法人私立大学通信教育協会編による『教育事情 第3版』(2016年度より必修領域と選択必修領域を『新しい教育事情』に更新)を使用し、選択必修領域では選択したクラスにより『造形ワークショップ入門』(武蔵野美術大学出版局 2015年)か『新しい教育相談論』(武蔵野美術大学出版局 2016年)、選択領域では『美術教育の動向』(武蔵野美術大学出版局 2009年)を用いています。対面講習では、必修領域と選択必修領域は講義形式、選択領域は美術の各分野の工房での実習と学習指導に関するゼミによる。

形式で実施しています。	必修領域				選択領域			
	登録者数			修了認定試験合格者数	登録者数			修了認定試験合格者数
	通信講習	対面講習	計		通信講習	対面講習	計	
2016(平成28)年度	55	121	176	169	48	128	176	171
2017(平成29)年度	67	117	184	182	60	130	190	184
2018(平成30)年度	75	132	207	195	73	134	207	196
2019(平成31)年度	71	125	196	183	60	136	196	182
2020(令和2)年度	100	中止	100	87	100	中止	100	90

登録者数には、レポート課題を提出していない者や欠席者・未受験者を含む。

	選択必修領域			
	登録者数			修了認定試験合格者数
	通信講習	対面講習	計	
2016(平成28)年度	55	121	176	171
2017(平成29)年度	73	116	189	182
2018(平成30)年度	75	132	207	196
2019(平成31)年度	71	125	196	183
2020(令和2)年度	100	中止	100	88

## 5 ■就職状況■ (施行規則第 22 条の 6 第 5 号)

### ■東京都教員選考合格者実績

東京都教育委員会の公立学校教員選考についての採用実績を記載します。東京都の美術教員の採用では、小学校図画工作科専科教員と中学校美術科、中学校美術科と高等学校美術科をあわせて実施されています。「名簿登載者」は教諭としての合格者、「期限付」は期限付名簿登載者として1年間の講師の合格者をさし、これらのデータには他の時期の選考試験や講師等の個別の採用を含みません。

採用年度 (実施は前年)	小・中学校		中・高等学校		特別支援学校		合計		
	名簿登載者	期限付	名簿登載者	期限付	名簿登載者	期限付	名簿登載者	期限付	合計
2017(平成29) 年度	11 (0)	4 (2)	2 (1)	5 (0)	0 (0)	1 (1)	13 (1)	10 (3)	23 (4)
2018(平成30) 年度	5 (2)	2 (0)	2 (1)	6 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (3)	10 (2)	17 (5)
2019(平成31) 年度	9 (0)	2 (0)	10 (4)	3 (0)	1 (0)	1 (1)	19 (6)	6 (0)	25 (6)
2020(令和2) 年度	9 (2)	4 (1)	4 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	13 (3)	5 (1)	18 (4)
2021(令和3) 年度	9 (2)	4 (1)	4 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	13 (3)	5 (1)	18 (4)

( ) 内は卒業見込み

### ■学校教員の採用実績

武蔵野美術大学キャリアセンターでは、各都道府県教育委員会・政令指定都市教育委員会に照会して卒業生の公立学校教員採用数を調査しています。また当年3月卒業者についての就職調査では私立学校や非常勤講師、大学助手等の就職状況も調査されています。これらのデータは、キャリアセンターを通じて説明会等で学生の参考に提示されるとともに、また「教師論」や「教育実践の研究」などの授業においても学生に伝えられています。

採用年度	各教育委員会による回答の集計 *1 (教諭等の専任者のみ)				キャリアセンターによる 当年3月卒業者の集計 小中高特支等 学校教員
	中学校 美術	高等学校 美術	高等学校 情報	合計	
2017(平成29)年度	25	2	0	27	3
2018(平成30)年度	14	3	0	17	3
2019(平成31)年度	33	2	0	35	1
2020(令和2)年度	15	0	0	15	1
2021(令和3)年度	15	0	0	15	1

\*1 2020(令和2)年度について、キャリアセンターによる当年度卒業者集計は、2020(令和2)年3月31日現在の数値で今後の変更がありうる。

## 6 ■質向上の取組■ (施行規則第 22 条の 6 第 6 号)

武蔵野美術大学は、教育職員免許法施行規則等に定める授業科目の充実に努めるほか、大学独自の質向上の取組として次の取組を実施しています。

### ■大学独自教科書の発行

通信教育課程における教職課程の教科書として多くの教科書を刊行して、また同書を通学課程の教科書としても活用することにより、授業及び授業前後の学生による学習に効果を上げています。常に新しい教育動向を反映するため、2016(平成 28)年度は 2002 年刊行『教育相談論』を『新しい教育相談論』に更新しました。2017-2018 年度には、新しい学習指導要領に対応する内容に、下記の通り新版を作成しています。

編著者	書名	刊行年月	出版社	通信教育課程該当科目
高橋陽一	チーム学校の教師論	2021年4月	武蔵野美術 大学出版局	教師論
高橋陽一著	新しい教育通義	2018年3月	武蔵野美術 大学出版局	教育原理I・II
三澤一実監修	美術教育の題材開発	2014年4月	武蔵野美術 大学出版局	教育方法、美術教育法I・II I・IV、工芸教育法II
大坪圭輔著	美術教育資料研究	2014年4月	武蔵野美術 大学出版局	美術教育法I・II・III・IV、 工芸教育法I
大坪圭輔著	工芸の教育	2017年4月	武蔵野美術 大学出版局	工芸教育法I
高橋陽一著	新版 道徳教育講義	2012年4月	武蔵野美術 大学出版局	道徳教育の理論と実践
高橋陽一・伊東毅著	道徳科教育講義	2017年4月	武蔵野美術 大学出版局	道徳教育の理論と実践
伊東毅著	未来の教師におくる 特別活動論	2011年4月	武蔵野美術 大学出版局	特別活動の理論と実践
高橋陽一・伊東毅編	新しい生活指導と進 路指導	2013年4月	武蔵野美術 大学出版局	生活指導の理論と実践
高橋陽一・伊東毅編	新しい教育相談論	2016年4月	武蔵野美術 大学出版局	教育相談論
大坪圭輔・三澤一実編	美術教育の動向	2009年4月	武蔵野美術 大学出版局	美術の歴史と鑑賞、教職実 践演習
高橋陽一編	造形ワークショップ 入門	2015年4月	武蔵野美術 大学出版局	ワークショップ研究I・II
高橋陽一編	特別支援教育とア ート	2018年3月	武蔵野美術 大学出版局	新課程「特別支援教育」
高橋陽一編	総合学習とア ート	2019年4月	武蔵野美術 大学出版局	新課程「総合的な学習の時 間の指導法」
大坪圭輔編	求められる美術教育	2020年3月	武蔵野美術 大学出版局	教職実践演習(中・高) 美術の歴史と鑑賞

三澤一実編	美術の授業のつくりかた	2020年3月	武蔵野美術大学出版局	教育方法 美術教育法I・III・IV 教職実践演習(中・高)
高橋陽一・伊東毅編	これからの生活指導と進路指導	2020年3月	武蔵野美術大学出版局	生活指導の理論と方法

## ■美術と福祉プログラム

1998(平成10)年度より開始された「美術と福祉プログラム」は、教職課程履修者に適用される介護等体験法にもとづく本学独自の取組です。2006(平成18)年度には文部科学省より「特色ある大学教育支援プログラム」(特色GP)に選定されました。2015(平成27)年度は、教職課程2年次の必修科目(情報免を除く)として「美術と福祉」(通年2単位演習科目、教科又は教職に関する科目に該当、7クラス開講)をゼミ形式で開設しています。運営は小平市内の6つの社会福祉施設と提携して外部評価委員会を置いて実施しています。教職課程研究室の高橋陽一教授が全体を担当して、各クラスは、杉山貴洋講師、川本雅子講師、田中千賀子講師、有福一昭講師、細野泰久講師が担当しています。

2019(平成31)年度からの再課程認定による新課程においては、前期2単位科目「総合的な学習の時間の指導法」と後期2単位科目「特別支援教育」として実施し、これらの授業のなかでコアカリキュラム等に指定する必要な理論と実践を学びながら、さらに「美術と福祉プログラム」の内容を含み込むことで高度に実践的な授業内容と展開します。また、通学と通信を通じて、『特別支援教育とアート』と『総合学習とアート』の二つの教科書を刊行しました。

**【詳細参照】** 美術と福祉プログラムウェブページ [www.musabi.ac.jp/gp/](http://www.musabi.ac.jp/gp/) 『美術と福祉プログラム報告書』2006年度～2008年度、高橋陽一『美術と福祉とワークショップ』武蔵野美術大学出版局2009年。高橋陽一編『特別支援教育とアート』武蔵野美術大学出版局2018年。高橋陽一編『総合学習とアート』武蔵野美術大学出版局2019年。

## ■造形ファシリテーション能力獲得プログラム

造形ファシリテーション能力獲得プログラムは、全学科の学生を対象にして、教職課程研究室を中心に造形学部全体が連携して実施しており、造形ワークショップを支える能力としての造形ファシリテーション能力を獲得するための取組です。「造形ファシリテーション能力獲得プログラム — 造形ワークショップの記録と表現による学士力の形成」として2009(平成21)年には文部科学省より「大学教育・学生支援推進事業」大学教育推進プログラム(テーマA)に選定されました。現在は高橋陽一担当「ワークショップ実践研究Ⅰ」、三澤一実・齋藤啓子担当「ワークショップ実践研究Ⅱ」(各半期2単位)として開講しています。

**【詳細参照】** 造形ファシリテーション能力獲得プログラムウェブページ [www.musabi.ac.jp/gp/](http://www.musabi.ac.jp/gp/) 『造形ファシリテーション能力獲得プログラム報告書』2009年度～2011年度、高橋陽一『造形ワークショップを支える』武蔵野美術大学出版局2012年。高橋陽一『ファシリテーションの技法』武蔵野美術大学出版局2019年。

## ■旅するムサビ・ムサビる

旅するムサビ・ムサビるは、教職課程研究室の三澤一実の指導で、教職課程履修学生を中心に学生主体の課外活動として、小中学校や地域団体と連携して行われる美術教育の活動です。図画工作科・美術科の教員と連携して、造形ワークショップ、児童生徒参加の展示活動、黒板ジャック、公開制作などの様々な取組が行われています。

**【詳細参照】** 大学公式ページ [www.musabi.ac.jp/collaboration/spread/tabimusa\\_project](http://www.musabi.ac.jp/collaboration/spread/tabimusa_project) 学生参加による公開ページ [tabimusa.exblog.jp](http://tabimusa.exblog.jp)



## ■学校ボランティア・インターンシップ

武蔵野美術大学教職課程研究室は、近隣小中学校を中心に積極的に学生が学校現場に関わるボランティア活動の機会の提供に努めています。一般大学と異なって実技授業時数の多い美術大学の特性から通常の授業期間での学校ボランティア・インターンシップには困難があるため、授業がない期間に計画的に送り出す活動として位置づけています。2019(平成31)年春で第8期を迎えた「上砂川むさびプロジェクト」(立川市立上砂川小学校との連携)や小平市立中学校での学校ボランティア活動を展開しています。

## ■教職課程の授業評価

教職課程のすべての授業科目において、授業評価を実施して授業の改善に活用しています。通学課程では教職課程独自の調査用紙を用いて、授業科目ごとに全数調査で実施しています。通信教育課程では課程全体の授業評価調査(全学生・全科目対象)により実施しています。これらの調査結果は、各担当教員に伝えられるとともに、教職全体の授業科目改善のための資料として活用されています。

## ■児童生徒・保護者向けの情報公開

教職課程のあり方を広く社会に伝えるために、全学のオープンキャンパスの機会に1教室を使ったブース出展や公開授業を行っています。ブースでは教職課程の特色ある取組が展示され、教職課程研究室教員による模擬授業、教職課程履修学生が相談役となった大学紹介・入学相談活動を行っています。また小中高等学校教員によって引率された児童・生徒のスペースとしても活用されて定着しています。2020(令和2)年度においては、新型コロナウイルス対策として実施が中止となりました。

## ■教育研究施設の充実

美術と福祉プログラムの実施や学生の自主的な学習施設として1999(平成11)年4月に教職資料閲覧室が開設されました。教職資料閲覧室は、教職関係の図書や過去の介護等体験の記録類を備えた「閲覧室」、演習や準備を行う「演習室」、造形ワークショップの教材と記録を保管する「資料室」の3室から構成されています。2016(平成28)年4月からは、武蔵野美術大学14号館竣工に伴う施設充実に連動して、「演習室」を拡充して「美術演習室」2室(連結使用可能)と、教員の教育研究のための「教職課程研究室」が増設されました。

## ■科学研究費補助金による研究活動

教職課程研究室の教員が研究代表者として受け入れている科学研究費補助金は次のとおりです。

- ① 研究代表者三澤一実「Society 5.0に向けて学校運営で朝鑑賞に取り組む効果測定とシステム開発」基盤研究(C)(一般) 課題番号 20K02804、2021年4月1～2023年3月31日
- ② 研究代表者高橋陽一「教育勅語の本文とモノの系統的研究」基盤研究(C) 研究課題番号 19K02460、2019年4月1日～2024年3月31日
- ③ 研究代表者田中千賀子「近代日本の初等教育における森林・林業教育」若手研究・研究課題番号 19K14075、2019年4月1日～2024年3月31日

## ■研究室雑誌『造形と教育』の刊行

大学院での教員養成の取組として、大学院ゼミ「教育学研究」において大学院学生による調査研究の成果発表の場として『造形と教育』ISSN2187-5376 を発行しています。専修免許状課程の修士課程学生のみならず、博士後期課程学生や教職員による造形教育の報告のメディアとして定着しています。2021(令和3)年1月に第15号を刊行しました。

武蔵野美術大学『武蔵野美術大学教職課程の概要 第7年報 2021(令和3)年4月1日現在』

第1年報 2015(平成27)年3月31日作成 4月1日公表 同6月10日 誤植訂正版  
第2年報 2016(平成28)年3月31日作成 4月1日公表  
第3年報 2017(平成29)年3月31日作成 4月1日公表  
第4年報 2018(平成30)年3月31日作成 4月10日公表  
第5年報 2019(平成31)年3月31日作成 4月1日公表  
第6年報 2020(令和 2)年3月31日作成 4月8日公表  
第7年報 2021(令和 3)年3月31日作成 4月7日公表

〒187-8505 東京都小平市小川町1-736 (鷹の台校)  
(通学課程) 学生支援グループ 教務チーム 教職担当  
(研究室) 教職課程研究室・教職資料閲覧室

〒180-8566 東京都武蔵野市吉祥寺東町3-3-7 (吉祥寺校)  
(通信教育課程) 学生支援グループ 通信教育チーム 教職担当